

JR東海労ニュース

No. 717

2005年7月26日

JR東海労働組合

運転士になりたくない！苦悩する車掌がまた退職した。

JR東海ユニオンは、あの「名古屋マリオットアソシアホテル」で第14回定期大会を開催した。旬刊「ACCESS 85号」によれば、「車掌から運転士への運用に女性組合員が難色を示している現状については、女性中執が、『JRで働く女性の使命感が問われている。女性の深夜帯勤務も定着してきた。まずその場に身を投じてほしい』と訴えた。女性の職域拡大に伴う女性同士の”真剣勝負”。JR労働界では見慣れないやり取りも、東海では女性の意識が高まっていることを窺わせる一幕でもあった。」とある。少し違うのではないか。ごく最近、新幹線鉄事でも静岡支社でも女性車掌が、運転士になりたくなくて退職している。運輸系統の誰もが、運転士にならなければならないのだろうか？本人の意志や何らかの事情は考慮されないのか。使命感から論じられるのだろうか？使いやすく賃金の安い労働力は企業の論理に基づく。これに対して労働組合の論理は働きやすい、働きがいのある労働を求めることではないか。労働者の意志をできるだけ会社施策に反映させるために闘うのが、労働組合ではないのか。だから、JR東海労は、本人の意志・生活設計を無視し安全を損ねる運輸系統の社員運用に反対している。

意志を持つことが許されない社員運用は、やめよ！

「JRで働く女性の使命感が問われている。まずその場に身を投じてほしい。」ユニオン本部の答弁